本物の友達

南中学校3年
高岡（たかおか） 美帆（みほ）

私は友達と過ごす時間が大好きです。一人になると寂しいのです。「いじめ」にあっている人はいつも寂しく悲しい思いをしているんだなと思うことがあります。

私は小さい頃から背が低く、小学生の時は学年で一番背が低い時期もありました。でも私はあまり気にせず過ごしていました。しかし、私はこの言葉を言われた時、とてもショックを受けました。

「チビ」

ある時、男子に言われました。今まで気にしていなかった身長をこの時を機に少しずつ気にするようになってしまいました。でも、友達はいつも優しく接してくれました。その時、とても嬉しかったです。学年が上がるにつれ私のことを「チビ」という人は減っていき、私自身も「この身長も私の特徴なんだ」と思えるようになってきました。きっと「チビ」と言った人は特に悪気があったわけではないと思います。でも言われた私はとてもショックでした。このように「やった方は気にしていなくてもやられた方は傷付いている」ということがたくさんあると思います。

「自殺」

この言葉を最近ニュース等でよく耳にします。そしてその自殺の原因の多くが「いじめ」です。私の周りにも「いじめ」がたくさんあるかもしれません。「私と違うから」という勝手な理由でいじめにあっている人もいると思います。私はいじめている人はもちろん、いじめを見て見ぬふりをしている人も加害者だと思っています。いじめられている人は「誰も自分を助けてくれない。私は一人なんだ。」とさらに辛い思いをすると思います。でも、いじめに一緒に立ち向かってくれて自分を支えてくれる友達が一人でもいたらどうでしょう。きっと少しは心が楽になると思います。友達が一人でもいれば「自殺しよう」なんて思えないと思います。そして「いじめで自殺」という悲しい言葉を聞くことは少なくなっていくと思います。

人は全員が平等でなくてはいけません。私のように背の低い人がいれば、背の高い人もいます。肌が白い人がいれば、黒い人もいます。勉強や運動が得意な人がいれば、苦手な人がいます。しかしこのようなことはあたり前のことです。世界中の人が全員同じ顔で同じ体、同じ考えをしていたら、世の中は進歩していかないと思います。人はみんながそれぞれ違うからいいのです。考え方がたくさんあるから良い方向へと進んでいけるのだと思います。しかし現在、まだすべての人が平等な世界ではありません。そしてその偏見がいじめを生んでしまうのだと思います。私も気付かぬうちに人を傷付けてしまっているかもしれません。もしもいじめにあった時、一番必要なのは、自分を支えてくれる家族や友達です。お互いに助け合えて信じ合える人をつくることが大切だと思います。そうすれば、「いじめ」に負けない強い心を育てることができるはずです。これから先、楽しいことや嬉しいことがある反面、辛いことや悲しいこともたくさん待っていると思います。私はどんなことにも立ち向かえる心をつくっていきたいです。そして「いじめのない世界」になることを私は願っています。そのために私はつくっていきたいです。また、多くの人につくってもらいたいです。そして大切にしていきたいです。かけがえのない、信じ合える、「本物の友達」を。

Letter ありがとうの手紙

優秀賞
一般の部

有り難うお父さん

萱場 高橋（たかはし） 美紀（みき） さん

突然の年賀状からもう3年が、過ぎようとしています。

自分の我（わ）が儘（まま）で、十数年音信不通にしてしまい、結婚、孫の誕生も知らせずにいた私…。しかし、子供が成長するにつれ自分のした事の大きな間違いに気付き、思い切って写真付き年賀状を出しましたね。その返事が来てしかも、子供達に逢いに来てくれて本当に嬉しく感謝の気持ちで一杯になりました。今では、私達家族にとってなくてはならない大きな存在。

本当に、有り難うね。

うまうま 地元の旬を食べつくせ！ かんたん料理レシピ

「ポパイエッグコロッケ」

材料（4人分）

合いびき肉200g、ジャガイモ大4個、タマネギ中1個、卵2個、ホウレンソウ200g、小麦粉・パン粉・とき卵適量、塩・こしょう少々

作り方

❶ホウレンソウは、堅めにゆでて水気を切り、1㎝ぐらいに切る。
❷卵は、塩・こしょうを入れていり卵にする。
❸タマネギは、みじん切りにしていため、ひき肉を加えてきつね色になるまでさらにいためる。
❹ジャガイモはゆでてつぶし、❶❷❸と混ぜ合わせる。
❺❹を8個に分け、小麦粉・とき卵・パン粉の順につけて揚げる。

夢なかるべからず

「笑顔」が創造の原点

葉山（はやま） 香織（かおり） さん

企業とのコラボ

大阪国際女子マラソンスポンサーブースの一角に、空間アート作品が出現した。

光学フィルムを用いたそのアートは、光を巧みに操る。視点を変えることで、色彩や型を自在に変化させ、観る者を不思議の世界へと誘（いざな）う。

建築家 葉山香織

多くの企業が、無限の可能性を秘めた彼女の技術に注目している。

愛情を持って

幼い頃から、ゼロの状態から作り上げていくことに興味があった。元々絵やものを作るのが好きだったが、藤沢で設計事務所を営む父の仕事を眺めるうちに、自然と建築への想いが大きくなっていった。

人が動くと黒い壁も一緒に動いていく「流動的領域」展（BankART 1929 Yokohamaで開催）

高3の時、進路は迷わず建築学科に定めた。試験ではスケッチ力が要求されるため、毎日1枚のスケッチを日課とした。日々作業的になっていく画（え）を見た恩師が諭した。対象物を愛しなさい―その言葉は人生での礎ともなった。

工業大学で建築設計を学んだが、アートとしての建築に魅せられ、さらに東京芸大の院に進んだ。'04年修了制作に用いる素材を探していた時に、昔理科の授業で習った光を操る不思議なフィルムを思い出した。

「これは使えるかもしれない」人生を左右する大発見だった。

エンターテイナー

光学フィルムを取り入れた修了制作が評価され、感覚ミュージアム（宮城県）での常設作品や横浜での展覧会（写真）、東京ビッグサイトでの展示を手掛けることになった。'06年に一級建築士に合格。'09年には、彼女の技術が特許登録された。建築物にこの技術を用いた開放的な空間を生み出したいと、現在も設計活動に意欲を燃やしている。

その一方で、常に人を意識し、楽しませられるエンターテイナーでありたいと願う。彼女が作品に込める愛情は、観る者の笑顔となって花を咲かせる。

夢七訓（ゆめしちくん）

夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし
ゆえに　幸福を求める者は
夢なかるべからず※

〔本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています〕

※渋沢栄一が残したとされる「夢七訓（ゆめしちくん）」より。「夢なかるべからず」は「夢を持たないといけません」という意味。